

おうちで楽習保育®をやってみよう

ぞうけいあそび編

例年にも増して猛暑の今夏。熱中症や感染症などを考えると、おうちの中で涼やかに、ゆっくり過ごす時間もいいですね。

今回は「ぞうけいあそび」編！保護者の皆さまからのご質問にお答えしながら、夏のおうち時間にもピッタリな、お花紙を使ったぞうけいあそびをご紹介します。

ママ・パパの悩みに 専門家が答えます！



保育園に飾られている作品が、他のお子さんと比べると明らかに仕上がりに差があります。教室に通わせたら上手になるでしょうか？（4歳/男児のママ）



一緒に飾られた作品の中で、我が子の状況を心配なさる気持ちはよく分かります。気持ちが向いて取り組んだ時とそうでない時の差など、状況に応じて表現のあり方も変わります。大らかに受けとめつつ、気になる場合は保育者に活動の様子を尋ねてみてはどうでしょう。

本人の困りごとや課題があれば、おうちでも遊びを通じて楽しく取り組む機会があるといいですね。

お教室は「上手」になることよりも、**描くことやつくることが楽しいと思える場所がさらに必要**だとお考えの際には有効かもしれません。



私は絵がとても苦手で、子どもが絵を描いてと言ってきたとしても上手に描いてあげる自信がありません。それでも描かなくてはいけませんか？（2歳/男児のパパ）



描くことへの興味や関心が芽生える時、子どもは大好きなおうちの人とその思いと一緒に味わいたいんですね。絵は、決して上手である必要はありません。線一本、○一つ、サイン一つでも、描いてほしい人がその場で手を動かし、応答してくれたことが喜びなのです。

描くことのやりとりは、まさにコミュニケーションです。

思うように描けない！ことも含めて、お子さんと一緒に楽しみ、笑いに変えることもできます。

例えば、利き手を使わない、目を閉じて描く、等、「上手」にとらわれずに描く/遊ぶことも可能です。



うちの子は、自分は絵が下手だからと言って画用紙を前にしても何も描こうとしません。いつか描くようになるのでしょうか？（4歳/女児のママ）



本来、絵は上手一下手に関係なく楽しめるものです。無理強いすることなく、少しずつ気持ちがほぐれるといいですね。誰でもまっさらな画用紙を前にすると抵抗感が生じることがあります。

新聞紙や包装紙にカラーペンをすべらせる、

小さい紙をカラフルな色（点でも模様でも）で埋めていく、

親子一緒に紙の上で線の散歩をする、など楽しみ方は色々です。

お友達の絵や美術作品等に触発されて描きたい！と思うこともありますので、親子で美術館などに出かけるのもおすすめです。



いま、話題の「アート思考」とはなんですか。また、どのようにしたら身につくのでしょうか。（5歳/男児のパパ）



社会や世界の不透明感が増すなかで、たくましく想像力や創造力を働かせる「アート思考」が求められます。アート思考とは、既成概念などの“あたりまえ”を超えて、独自の見方や考え方を重視する思考です。

アート＝「技」であり、アート思考はこの困難な時代を

よりよく「生」きる技なのです。

子どもはぞうけいあそびにおいて、多感覚を働かせ多様な素材や用具に触れて、対象の声に耳を澄ませながら、自身のあり方を調整します。

その中で想像/創造性が養われ、アート思考が育まれます。



お花紙をつかって遊んでみよう！

入園式や運動会などで目にするふわふわしたお花の飾り。カラフルな色合いとやわらかな素材が特徴の、ティッシュのような薄い“お花紙”という素材が使われています。

実は、行事で飾るお花以外にも、たくさんのお花紙に活用できるのをご存知ですか？

紙自体がやわらかいため、子どもが簡単にちぎったり丸めたりでき、感触や大きさ、かたち、色に触れながらさまざまなあそびを楽しむことができます。紙で手を切ってしまうなどの事故も起きにくく、安全な環境でぞうけいあそびができるのも、保護者の皆さんにとっては嬉しいポイントですね。



1 お花紙の感触を楽しもう

丸めてみたり、思いのままにビリビリ破いてみたり。宙に投げて、ヒラヒラを目で追いつつキャッチ！

お花紙の触り心地を楽しみながら、乳児から楽しめるあそびです！！



2 お花紙で色水あそび・感触あそび

水に溶ける性質を活かして、空きペットボトルにちぎったお花紙、水を入れることで色水あそびが楽しめます。

水を入れたらよく振って、水にお花紙が溶けて水に色がついたならジュースの**できあがり！**



「いらっしゃいませ〜 何の味にしますか〜？」

「凍らせたら かき氷になるかな!？」

いろいろな色でジュースをつかってジュース屋さんごっこやおままごとにも発展させられます。

容器にお花紙と水を入れて手でまぜまぜ...

洗濯のりを入れることで「練る」感じが出るため、ぐちゃぐちゃ、トロトロ、ぐにゅぐにゅした触り心地を楽しめます。

暑い夏、水あそびの延長でダイナミックに遊んでみましょう！



「いらっしゃいませ〜 手に ついてあ〜！」

「ぐにゅぐにゅして おもしろい〜！」

丸めて固めておくと、水分が蒸発し玉の形になります。



「なんでこれだけ 固まるのかなあ?！」

トレーなどに広げて様々な形づくりも楽しめます！

注) 遊び終わったら、手にくっついたり水に溶けたりしたお花紙が排水溝に詰まらないよう、手はバケツやタライなどで下洗いし、ザルやネットを通して流すことをおすすめします！

3 お花紙でスタンドグラス風

霧吹きや筆に水を含ませて、窓にお花紙を重ねて貼ったり、好きな形にしてスタンドグラスのようなお花紙アートを楽しめます。



お花紙電車

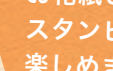


タープ

おうちでキャンプごっこ?! 霧吹きでタープづくりにも！

4 お花紙の可能性～描画材として～

お花紙と、**絵具+水+のり**で出来たスタンピングで“描く”ことも楽しめます。



楽習保育®チャンネルでも、おうちで簡単にできる「感性をみがくお花紙アート」を動画で紹介しております。是非ご覧ください！

「楽習保育チャンネル」で検索！ <https://youtu.be/FmH56tksEml>

専門家の声 VOICE



ぐんし あきこ 郡司 明子先生

楽習保育® ぞうけいあそび 教育アドバイザー

私とあなたは異なる、けれども受けとめあえる関係性＝多様性が重視される世の中です。ぞうけいあそびは、多種多様な形や色や質感を伴いながら個々の表現の相違や共通、すなわち多様性が可視化される良い機会です。その中で、全ての子ども＝表現が尊重され、かけがえない大切な存在として受け入れられる、そんな安心感（人生の土台）が醸成される場でもあります。ぞうけいあそびとは、単に、絵を上手に描く、ものを巧みにつくるための時間ではありません。様々な素材、用具の扱いなど、未知なるものごとに向かい、対象とどう折り合いをつけていくのか。そのために聴き手（対象：紙、木、粘土、布、パス、絵具、ハサミ等々）の声に聴き入り、対話（造形行為としての呼びかけ一応答）をしていく楽しさや思いもありません。ご家庭でも、描くこと、際立つことが楽しい環境を準備してあげてください。その際、お子さんの活動に「よさ」を見出し、「この色がきれいだね」「ここは工夫したんだね」と本人が力を入れているところを見つけて、具体的に伝えてあげてください。「あなた（＝表現）のこころを受けとめているよ」のメッセージが、お子さんを強くしなやかにし、多様性の時代に他者を受けとめること、自信を持って生きぬくことの素地になります。